

新居浜弁 最高!? 再考

「ツルの恩返し」を 新居浜弁で語ってみると…

昔ねー よいよう お金ないんじゃけど

昔、とても貧乏だけど、

どこばかりおらん 優しい おじいはんと おばあはんが おったんよ。

どこにもいないうな 優しい おじいさんとおばあさんがおりました。

ある さぶい日に おじいはんが 田んぼで

ある寒い日におじいさんが田んぼで

畠にかかった ツル見つけての。

畠にかかったツルを見つけました。

こじけて どろもぶれで やつれとらい。

凍えて、泥まみれで、とてもやせ衰えている様子です。

「こりやどうならい。死ぬる目えに あいよったのー」 言うて

「これは大変だ。死ぬ目に遭うところだったね」と言って

おじいはんは ツルを畠から 逃がして やったんよ。

おじいさんはツルを畠から逃がしてやりました。

ある日 家の 戸お 「トントン、トントン」 いうての

ある日、家の戸を「トントン、トントン」と

叩く音したけん おばあはんが 戸お 開けたら

叩く音があるので、おばあさんが戸を開けたところ、

頭から 雪もぶれの 娘さんが しんどそうな顔して 立つとったんよ。

頭から雪まみれの娘さんが、疲れた顔をして立っていました。

「ごめんやけど 今晚泊めてくれんかろか?」

「申し訳ないけれど、今晚泊めていただけませんか?」

「ありやりやー ひやこかろがね。はよ入らんけん」

「あらあら、とても寒かったでしょう。早く(家に)入りなさい」

おばあはんは「どしたんぞね。話とおみ」 言うたけど 娘は 黙つとらい。

おばあさんは、「どうしたんだい。(訳を)話してみなさい」と言いましたが、娘は黙っています。

泊めたもんの 日に日に 雪つよなるし 何日もやまんけん。

(娘を)泊めたものの、日が経つにつれて雪は強くなり、何日も降り続きました。

娘は だんだん 元気になってきて あらいやけ 手伝うたり

娘はだんだんと元気になってきて、洗い物を手伝ったり、

おじいはんの 肩もんだり しましたんよ。

おじいさんの肩を揉んであげたりしました。

「こんな娘 おったら ええぞいね」 おじいはんが 言うたら

「こんな娘が居たらいいな」 おじいさんがそう言うと

娘は「うち身寄りないんよ。じゃけん ずっと置いてん」 言うてきたわ。

娘は「私には身寄りがございません。だから、ずっとここに居てもいいですか」と言ってきました。

おじいはんも おばあはんも 喜んだわね。

おじいさんもおばあさんも、喜びました。

だんだん娘も しゃんしゃんしてきて そりゃ よー 仕事したわ。

日が経つにつれ、娘もしっかり者になってきて、とてもよく家事などをこなしました。

ほんで 3人で よくげはないけど 楽しいに 過ごしよったんよ。

そして、3人で欲心はないけれど、楽しく暮らしておりました。

ある日のことよ。

ある日のことです。

娘が「機織りしたいけん 糸買ってくれんかろか?」と 言うてきたんよ。

娘が「機織りがしたいので、糸を買ってくれませんか?」と、言ってきました。

おじいはんが 糸買ってきたら 娘は

おじいさんが糸を買ってきたら、娘は

「ちょっとかまんで。終わるまで 絶対のぞいたらいかんよ」

「ちょっといいですか。(機織りが)終わるまで絶対覗かないでくださいね」

言うて 戸お たったわね。

と言って、戸を閉めてしましました。

キコパタトン キコパタトン キコパタトン。

(機織りの音) キコパタトン キコパタトン キコパタトン。

戸お たったままじゃけん 見ることも まがることも できん。

戸を閉めたままなので、見ることも触ることもできません。

娘が 機織り出して 3日目のことよ。

娘が、機織りを始めて、3日目のことです。

できたのは 上等な織物 だったんよ。

完成したのは、とても品質の良い織物でした。

「どいよにしたら こんな織物 できるんぞね?」

「どうすれば、こんな(品質の良い)織物が出来るんだい?」

おじいはんが 聞いたけど 娘は 黙りこくつとつた。

おじいさんが聞きましたが、娘は黙っていました。

けど「これ 売りに行って ほんで また 糸買うて来てくれんかろか」

だけど、「これを売りに行き、そして(売れたお金で)また糸を買って来てくれませんか」

ほんなん 言うてくれたんよ。

そんなことを言ってくれました。

おじいはんが 町 売りに行ったら みよるまに 人が 集まってきたわね。

おじいさんが町に売りに行ったところ、短時間で人が集まってきたました。

「こりや すごいの一」 「こんなん いつでもかつても ないぞねえ」

「これは凄い(織物だ)」 「これは、いつなんどきも、何処にも無い(ような織物だ)」

町の人らも 織物見たら けっこなこと 言よらい。

町の人たちも、織物を見たら素晴らしい言葉を言ってくれます。

それ見よった 殿さんが「こりや すごいの」 ゆうて

その様子を見ていたお殿様が「これは凄い」と言って

目えがむけるぐらい たまげる値段で 織物 買うてくれたんよ。

とんでもない驚きの高価格で、織物を買ってされました。

おじいはん 嬉しなって また さらの糸 買うて帰ったわね。

おじいさんは嬉しくなり、また新しい糸を買って帰りました。

また娘は 一人で 機織りし出したんよ。ほんで また 出てこんかい。

また娘は一人で機織りを始めました。そして今回も(部屋から)出でません。

「あの娘 どうやって あんな けっこな布 織るんだろう?」

「あの娘はどうやってあんな高級な布をおっているんだろう?」

あずりよんじないんかいねえ。ちょっと のぞいたろか」

苦労しているんじゃないだろうか。ちょっと覗いてみようか

おじいはんが「いかん」 言よんのに 気になった おばあはんは

おじいさんが「(覗いちゃ)だめだ」と言っているのに、気になったおばあさんは、

心臓強いけん のぞいて しもたんよ。ざっとしつらい。

度胸があるので、覗いてしまいました。細かな配慮ができない人です。

ほしたら 娘じゃなしに ガリガリで かつれてしまふ ツルが

すると、娘ではなく、ガリガリの飢えたようなツルが

自分の羽 むしくって 機織りよったけん。

自分の羽を引っ張り取って、機織りをしていました。

おばあはん たまげたわね。ほんで おじいはんに すぐ言つたんよ。

おばあさんは驚きました。そして、おじいさんにすぐに言いました。

キコパタン、キコパタ…。

(機織りの音) キコパタン キコパタ…。

機の音がせんなって前よりやせこつになった娘が出てきたわね。

機織りの音が止まって、以前よりやせ細った娘が出てきました。

「バレてしまもたねえ」

「(正体を)見られてしまったようですね」

おばあさんは「いらんことしてしまった」思たけど遅かったわね。

おばあさんは「余計なことをしてしまった」と思いましたが、(時はすでに)遅かった。

娘はおかしこまりしておじいはんとおばあはんに言うたんよ。

娘は(きちんと)正座をして、おじいさんとおばあさんに言いました。

「あけすけに言おわい。うちいつぞに助けてもらたツルなんよ」

「正直に言います。私は昔、助けてもらったツルなのです」

「ほおだつたんかね」

「そうだったのか」

おじいはんもあのさぶい日を思い出したんよ。

おじいさんも、あの寒い日のことを思い出しました。

「恩返ししたいけん娘になってここにきたんじゃけど…

「恩返しがしたかったので、娘になってここにやってきましたが…

もうお別れじゃねえ。ずっと元気でおってんよお」

これでもうお別れです。ずっと元気で暮らしてくださいね」

言うたら娘はすぐにツルになって空にいんでしもたわ。

そう言い残すと娘はすぐにツルに変身して、空に帰っていました。

おじいはんは止めよかおもたけど鳥じゃけんさどかったわね。

おじいさんは止めようとしたが、そこは鳥です。とてもすばしっこかった。

空を舞い舞いしよるツル見ながらおじいはんとおばあはんは

空を飛ぶツルを見ながら、おじいさんとおばあさんは

「ツル～! あんたも元気にしとくんよ～ありがとう～!」

「ツル～! あなたも元気でね。ありがとう～!」

おらびながらずっとツルを見送ったわね。

叫びながら、ずっとツルを見送りました。

ほやけど二人は織物売ったお金で

だけど、二人は、織物を売ったお金で

あんきに暮らせたんじゃって。

経済的に不自由無く、暮らすことができたということです。



【本文内赤文字の解説】

こじけて	こじける=手足が寒さで凍えること。若い世代にはすでに通じない言葉。
どろもぶれ	もぶれ=まみれ。この場合「泥まみれ」の意味となる。
話とおみ	~しとおみ=~してみなさい。食べとおみ=食べてみなさい、やつとおみ=やってみなさい、となる。話とおみ=「話してみなさい」は、深刻な内容や秘密の事柄を聞き出す場合に使われることが多い。
たつた(たつ)	戸をたつ=戸を閉める。「断つ」「絶つ」が語源か?外からの進入を防ぐ意味かも。例「シャッターたつごわい」
まがる	触る、触れる、の意。「いろいろ」とも言う。例「危ないけん、まがつたらあかん」「いろいろ火傷するよ」
いつでもかつでも	時、場所を考えずに、の意味。いつでも=何時でも、となるが、「かつでも」の語源は不明。北海道、青森、大分等でも使われているとか(編集部調べ)
目えがむけるぐらい	俗にいう「目ん玉が飛び出る程」的な意味。
ざつとしとらい	ざつとしとる(している)=いいかけん。(性格や振る舞いが)雑な人だ、となる。
むしくって	むしくる=むしる。標準語で「草むしり」とあるのでニュアンスは掴みやすいのでは?
やせこつ	痩せている様。痩せる+骨(コツ)からか?「骨皮筋右衛門(ほねかわすじえもん)」、「骨皮筋子(ほねかわすじこ)」の表現方法もある。
いんで(いぬ)	いぬ=居ぬ=帰るとなる。いんでこーわいは「帰ります」の意味だが、この界隈以外の人が聞くと「また戻ってくるの?」と取られてしまう、不思議な言葉。
さどかった(さどい)	動きが機敏で、すばしっこい様。動きだけでなく、敏感な場合など、「感覚」の場合にも使われる。
あんきに	経済的に恵まれている様子、が本来の意味のようだが、現在では金銭的なことは別に、「何も悩みが無い」ような場合、また「嫌み的に」使われることもしばしば。例「仕事もせんと遊び回りよんけや。あんきなの~」

※ストーリーは編集部で一部脚色しております。

ニュアンスや発音等は、地域、性別、年代などで異なります。また地域、性別、年代などで使う言葉、使わない言葉もございます。ひとくくりに「新居浜弁」とするのはおこがましいのですがご了承ください。

過去に掲載のバックナンバーは編集部にお越し頂ければ、無料でお渡しできます。
また、過去掲載分のPDF版をダウンロードできます。 <http://www.hoo-ja.com/>